

## Cleanup Cautionary Points

# データベース クリーンアップ ツール – KB4041

OpenLMは、お客様のOpenLMデータベースからアイテムを削除する機能リクエストを受け取りました。この要求はさまざまな動機から生じました。

- ユーザー群が誤ってOpenLMデータベースに登録されました。これは、EasyAdminの閲覧が困難で不便になる大きなユーザー数になってしまう可能性があります。
- ユーザーとグループは組織のアクティブディレクトリ内で動的です。廃止されたり不適切になるかもしれません。
- 古い履歴情報は、組織の方針に従って破棄する必要がある場合があります。

## データベースのバックアップ

OpenLM Serverサービスを停止し、ここで説明するクリーンアップの前にデータベースをバックアップすることが不可欠です。

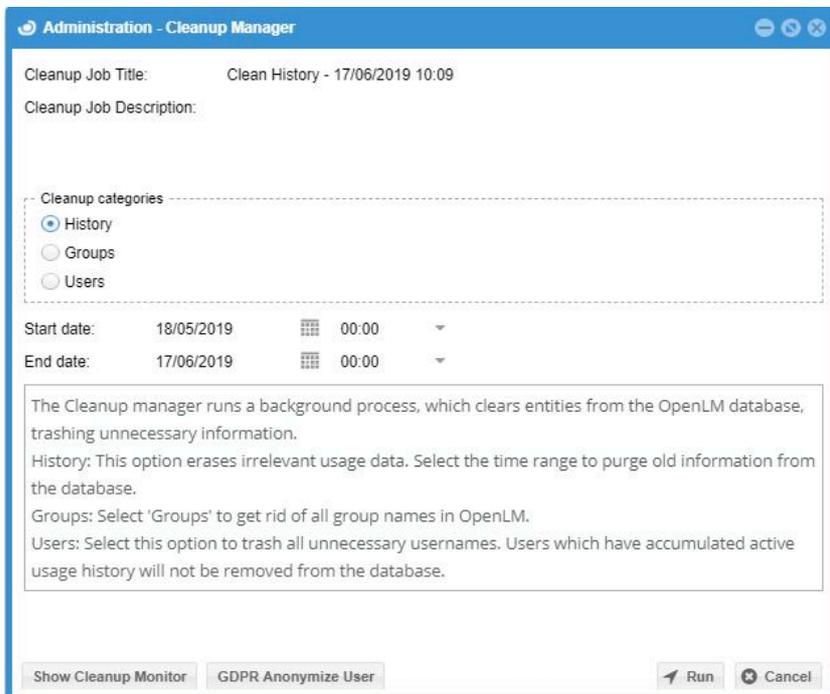
データベースのクリーンアップ処理は最終的な処理であり、消去されたデータをリカバリーできません。

## クリーンアップ マネージャ

このクリーンアップユーティリティを活用するには、EasyAdminの**スタートボタン**をクリックし、**管理**と**クリーンアップ マネージャ**を選択します。(スタート→管理→開始)

3つのクリーンアップ方法(**履歴**、**グループ**、または**ユーザ**)を選択し、クリーンアップ構成に**タイトル**と**説明**を指定します。**実行**をクリックします。





**クリーンアップモニタの表示**をクリックすると、クリーンアップ処理の進行状況を確認できます。これにより、モニターウィンドウが開きます。



## 履歴のクリーンアップ

履歴のクリーンアップでは、次のデータベースのテーブルから、期間の設定構成に従って履歴エントリが削除されます。

- 時間、週、月に応じたライセンス使用情報
- アプリケーション終了のログ
- ライセンス拒否
- セッションごとのライセンスのアイドル時間

## グループのクリーンアップ

管理者は OpenLM データベース内のグループを完全に削除できます。

### データベースのリレーション:

グループと他のOpenLMデータベーステーブルへのリンクも、次のように削除されます。

- ロールと権限
- グループのコンピュータ
- グループのプロジェクトメンバーシップ
- メンバー ユーザー



- LDAP 同期エンティティ

## 削除されないグループ:

- クリーンアップツールの適用中または適用前にライセンスをチェックアウトしたグループ。
- FLEXlmオプションファイルで宣言されたグループおよびホストグループ。
- デフォルトのOpenLM\_Everyoneグループおよび OpenLM Groupsグループは削除されません。

## ユーザーのクリーンアップ

管理者はユーザーを完全に削除できます。削除されたユーザーは、定期的な OpenLM LDAP 同期によって再登録されないようにマークされます。詳細については、このドキュメントを参照してください。

### LDAP (アクティブディレクトリ)同期: 総合ガイド

クリアされたユーザーは、監視対象のライセンスをチェックアウトしたときに再登録されます。

## データベースのリレーション:

ユーザーと他のOpenLMデータベーステーブルへのリンクも、次のように削除されます。

- ロールと権限
- ユーザーのグループメンバーシップ
- 拒否された後のライセンス予約
- ユーザー設定 (EasyAdminレイアウト、レポートウィンドウのフィルター)
- ユーザーのプロジェクトメンバーシップ
- LDAP 同期エンティティ

## 削除されないユーザー

一般的に、ライセンスの使用履歴や拒否の記録を持つユーザーは、ユーザー削除オプションによって削除されません。これは、特に次のレコードに関連しています。



- クリーンアップツールの適用中または適用前にライセンスをチェックアウトまたはボローしたユーザー。
- OpenLM Brokerによってライセンスマネジャーのデバッグログでアクティブまたはライセンスの拒否を報告されたユーザー。
- クリーンアップの適用時に、ログインが必要なOpenLMセッション (OpenLM Server設定ツールまたはEasyAdmin Webアプリケーション) を実行していたユーザー。
- クリーンアップの適用時に OpenLM Agentによって参照されたユーザー。
- EasyAdminで[フィーチャー使用状況レポート] ウィンドウを設定したユーザー。
- デフォルトの GeneralUser ユーザーは削除されません。

グループまたはユーザーの削除の場合-「作成元」というタイトルのドロップダウンを使用すると、必要なソースのみに合わせて削除プロセスを絞り込めます(LDAP、オプションファイル、ライセンス使用情報などから)。

+81 (0)50 5893 6263

sales@openlm.com

